

令和5年度 授業改善推進プラン 〈社会科〉

大田区立大森第十中学校

○社会科における令和4年度授業改善プランの検証

<p>取り組みにおける成果と課題</p> <p>成果として</p> <p>① 既習の基礎的知識の定着を図る授業を展開しているため、前年度に比べ第3学年と第1学年とも、教科の平均正答率が目標値を上回って現れた。</p> <p>② 精選した多くの地図や統計資料を提示し、それを読み取り、活用する授業を継続して展開しているため、全学年とも教科平均正答率の活用の分野で、上回って現れた。</p> <p>課題として</p> <p>① 第2学年において、ほとんどの領域で目標値を上回っているが、歴史分野の飛鳥時代～平安時代のみ区の平均正答率を下回っている。</p>
--

○社会科における大田区学習効果測定の結果分析

達成率（経年比較）△目標値を上回る ≡目標値と同程度である ▼目標値を下回る

	令和5年度結果		令和4年度結果		令和3年度結果	
第1学年	全体	△	/		/	
	基礎	△				
	活用	△				
第2学年	全体	≡	全体	△	/	
	基礎	≡	基礎	△		
	活用	△	活用	△		
第3学年	全体	△	全体	≡	全体	△
	基礎	△	基礎	≡	基礎	△
	活用	△	活用	≡	活用	△

○社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>全学年において、社会科正答率については、全項目とも目標値を上回った。</p> <p>第1学年は、全体・基礎・活用分野で目標値を上回っている。問題の内容別正答率でも、全分野、目標値を上回っている。</p> <p>第2学年は、地理分野の「日本の姿」と「世界の諸地域」、歴史分野の「飛鳥時代～平安時代」は目標値を下回っている。</p> <p>第3学年は、全分野で目標値を上回っている。</p>
観点別結果の分析	<p>全学年とも、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点とも、目標値を上回っている。</p>

○調査に基づいた授業改善のポイント

- 1 既習の学習内容の定着を図る。
 - ・チャイム着席を励行し、落ち着いて授業に参加できる学習環境を整える。
 - ・基礎的な知識の定着を図る授業を継続的に展開する。また、基礎学力テスト（名称：学習オリンピック等）を計画し、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。
- 2 継続して資料を読み取り、活用する力の育成を図る。
 - ・精選した多くの地図や写真、映像、統計資料、新聞資料などを提示し、それを読み取り、活用させる授業を継続的に展開する。
- 3 「主体的に学習に取り組む態度」を高めるために、キャリア教育の視点を取り入れ、主発問を明確にする。また、電子黒板を活用し、授業をビジュアル化の中で「自己理解・自己管理能力」を身に付けさせる。

○社会科の授業改善策

・基礎的知識のいっそうの定着を図るために

- 第1学年 ワークシートの作業を中心に、一人一人が主体的に取り組むことができる授業を実施する。また、定期考査の他にまとめノートの作成や家庭での復習を実施して基礎的な知識の定着を図る。
- 第2学年 落ち着いた雰囲気の中で、集中できる授業を実施する。また定期考査の他に基礎学力テストとその後の補習、年間4回のノートまとめを実施して基礎的な知識の定着を図る。
- 第3学年 ワークシートの作業を主体的に行い、自己の言葉で表現することで学習内容の理解・定着を図る。また、まとめノート作成や家庭での復習を利用し基礎知識の定着を図る。

・資料を読み取り、活用する力を高めるために

- 第1学年 地理的分野では、各地域の写真や関係するグラフ、地図の分布の読み取りを通して資料活用の技能を高める。夏季休業中には、世界の国々に関するポスターづくりを行い、興味・関心を高める。歴史的分野では、文献資料・絵画・写真資料を利用し、その時代の背景や特色の理解を図る。両分野において、スライドやタブレットを活用する等 ICT 機器の利用を推進する。
- 第2学年 地理的分野では、白地図作業に継続的に取り組む。電子黒板を活用し、教科書の資料や写真に着目させ、それを中心に授業をすすめる。また、視聴覚教材も活用する。夏休みには、地域調査に取り組ませる。歴史的分野では、近現代史では、ワークシートを活用して統計資料からその時代の特色を捉えるように取り組む。
- 第3学年 公民的分野では、現代の問題を含めた精選した資料や新聞などを有効に活用し、現代社会の特色を多面的に捉えられるようにする。歴史的分野では、教科書等の統計資料からその時代の課題を見いだす取り組みを行う。また、プリントのまとめを通し、資料活用の技能を高めたり、租税教室で外部のゲストティーチャーを活用したりして、作業的、体験的学習を推進する。